

市議会
9月定例会

「奈良らしい眺望景観」選定、西ノ京の大池 市の整備手つかずを指摘

写真家の入江泰吉氏が愛した奈良の原風景・西ノ京の大池＝写真＝は、奈良市が定める「奈良らしい眺望景観」の一つになっています。この眺望風景は市が平成23年度に選定。市内計41カ所の景観が選ばれており、それぞれに保全と活用の目標が掲げられています。

大池については「古都奈良の社寺と大和青垣が織り成す歴史的風土を感じられる眺望景観づくり」を目標に、池畔の草地の管理を行った上で、案内板や休憩施設、遊歩道などの整備や安全性の確保など、眺望景観を楽しむような空間の整備を行うとしています。

しかしながら、草地の管理は、地元の水利組合が長年担っており、休耕地の増加や高齢化などの理由から、年々その維持管理は難しいものになってい



る地元の課題があります。また、浮見堂のような遊歩道整備なども選定後から進んでいない状況です。

市議会9月定例会の代表質問で私は、これら地元の課題を取り上げて指摘。池畔の斜面の草刈りの危険性や人手不足、西ノ京地域の観光振興や交流人口の増加のため、市が選定した「奈良らしい眺望景観」の目標や活用に取り組んでいくための予算付けや市としての支援を強く求めました。

市議会
6月定例会

今年度末完了も見えぬ跡地活用

県立病院跡地解体「県との協議を密に」

平松地区の奈良総合医療センター跡地＝写真＝は現在、建物の解体工事が行われており、令和5年2月28日に完了する予定です。この跡地の活用については、平成31年に、地元、県、市などで組織するまちづくり協議会が初開催されて以降、開かれていない状況で、方向性が見えないままです。市議会6月定例会では、この跡地活用について一般質問でたずねました。

市は、平成31年に基本構想の素案を示して以降、地元からいただいた意見や子どもセンターの計画地変更などを踏まえた修正案について県と協議を行ってきたと説明。地元からは「県が担う役割が十分見えてこない」といった指摘もあることから、県に対してこれまでに寄せられた意見を反映したまちづくりを検討するよう申し入れており、県から一定の方針が示された段階で、まちづくり協議会の再



開に向けた調整を始めたいとの答弁がありました。

私は「県と市の協議の連携がうまく進んでいないことが答弁からうかがえることに加え、地元の方々からは『市と県から説明がない』との声も聞き及んでいる。本来なら撤去工事が終われば速やかに跡地利用に向けた事業を実施していくべき。このままではまったく協議が進展せず、地域や地元の皆様の意見が反映されない。県との協議・調整を密にしてもらいたい」と強く要望しました。

市議会
6月定例会

今夏の参院選、近鉄大和西大寺駅北口で演説中の安倍晋三・元総理が銃撃を受け、ご逝去されました。このような卑劣な犯罪行為を到底許すことはできません。最大限の言葉で非難します。安倍元総理の御霊の平安を祈ります。

西大寺駅北口広場について私は市議会6月定例会で「北口から東口への道路整備が行われているが、東側は依然狭い道路で良好な歩行者空間が確保できていない状況にある」とし、今後の整備計画について市の考えをたずねました。

市は「今年4月、西側から順に工事に取りかかっており、発掘調査を実施している箇所についても調査終了後から順に工事に着手していく。令和5年3月に工事を完成させ、4月から供用開始する」と見通しを述べました。

また、現在工事を行っている区域から東側については「良好な空間が確保できていない」と答弁し、今年度、事業認可に向けて協議を行っている」と説明。私は「通行量の多い道路のため、早期の整備を」と求めました。



来年4月の供用開始に向け整備が進められている近鉄西大寺駅北口広場

DX化の推進を選挙にも

夏の参院選で市は、「選挙区午前0時、比例代表午前1時」の開票作業終了を目標にしていたが、比例は午前4時を過ぎて終了しました。職員の業務の効率化や、市民有権者の利便性について私は、所属する総務委員会で課題の質問を行い、DX化(デジタルトランスフォーメーション=デジタル技術を活用した変革)を提案しました。

タブレットなどで投票が可能になる電子投票がDX化の最大目標ですが、現行法で電子投票が認められているのは地方選挙のみです。また他市では、機器の故障で選挙無効になったケースがあります。

市はこれまでに、期日前投票の名簿対照をパソコンの画面上で行えるようにするなど、一部DX化を進めています。私の質問に対し市は、選挙事務のさらなるDX化が必要と答弁し、機器の故障などのリスク回避の手法も構築し、可能なものから取り組んでいきたいと述べました。

近鉄西大寺駅北口広場整備
令和5年3月に完成